

## 市町村合併を考える②

# 羽幌町の人口推移と将来推計

羽幌町の総人口は、3万人を超えたときもありましたが、基幹産業の炭鉱閉山や国鉄羽幌線の廃止、官公庁の撤退など歴史的な移り変わりの中で、人口は推移してきています。

日本全体では、平成18年をピークに、それ以降人口は減少し、少子高齢化が進むと言われていますが、留萌管内市町村で、調査研究した羽幌町の人口について推計をしてみましたのでお知らせします。

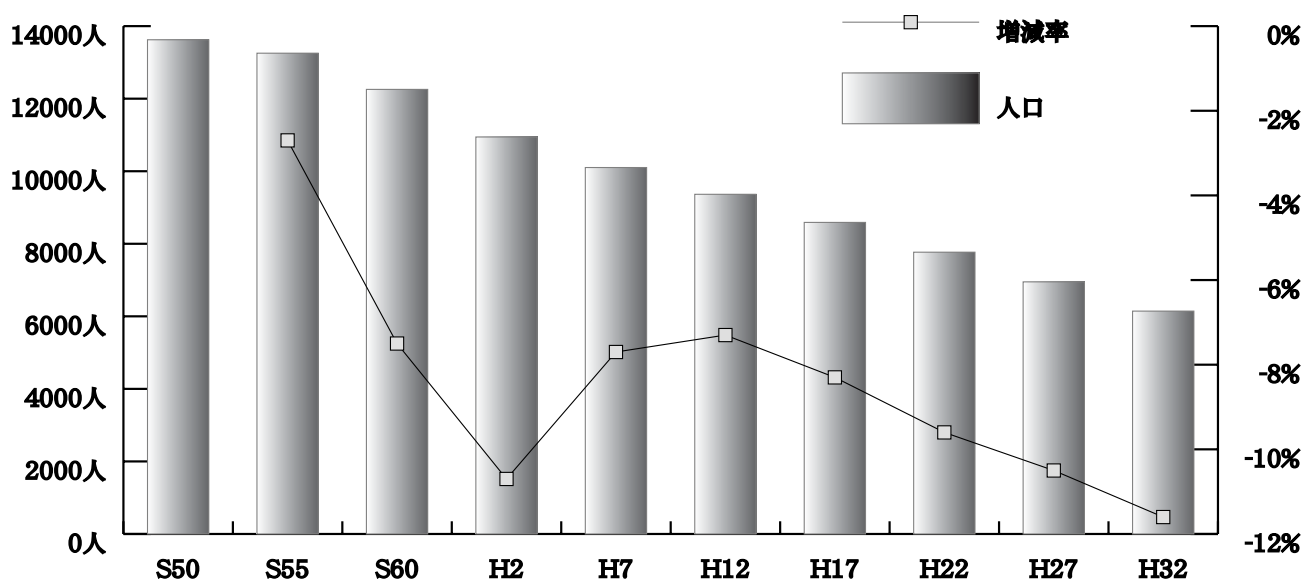
### 人口の推移と将来推計

●平成32年の将来人口は、6,144人となり、平成12年との比較では、3,220人減少すると予定されています。

(単位：人)

年 項目	S 50	S 55	S 60	H 2	H 7	H 12	H 17	H 22	H 27	H 32
総人口	13,624	13,254	12,256	10,944	10,102	9,364	8,589	7,768	6,950	6,144

(資料：国勢調査、(財)統計情報研究開発センター)



## 年齢別人口の推移と将来推計

年齢別人口は、年少人口（0歳～14歳）と生産年齢人口（15歳～64歳）が減少し、老年人口（65歳以上）が増加しています。平成32年と平成12年との比較では、年少人口は648人の減、生産年齢人口は2,550人の減、老年人口は22人の減と推計され、特に老年人口の割合は、平成32年で40.5%になると推計されています。

将来羽幌町では、働く年代の人や子どもが減り、高齢者が多くなると推計されています。このことは、「税金を納める人が減り」、「反対に使う人が増える」こととなります。（年金、保健、福祉、医療など高齢者に係るものに負担が大きくなります。）また、働く人が減ることにより、生活に必要なものを作ったり、買ったりすることが低くなり、また地域活動が低くなることも心配されます。

考えていかなければならないこと

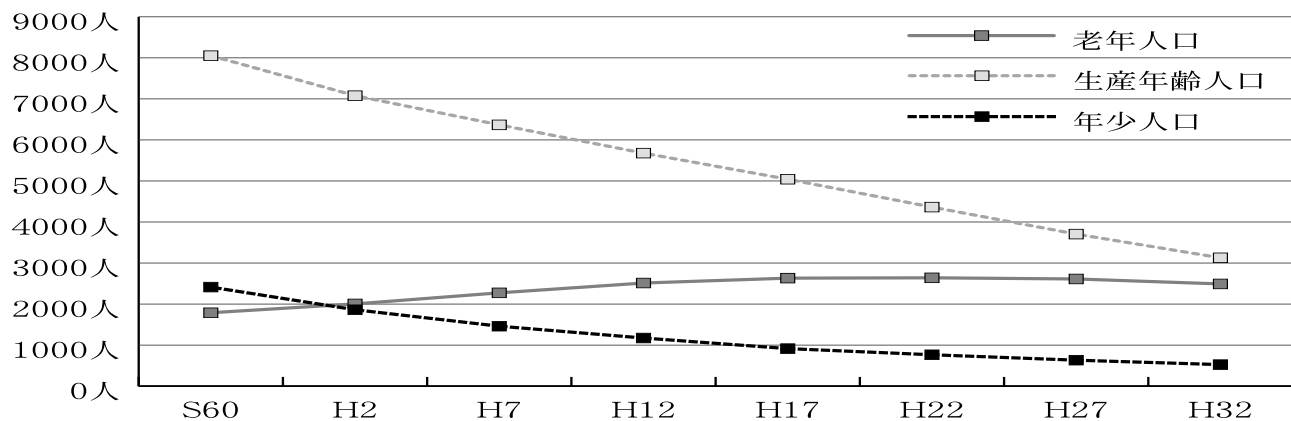
高齢者が、家庭、地域など各分野に置いて、「豊かな経験と知識、技能を地域社会」で発揮してもらい生きがいと、潤いのあるサービスの一助を担っていただくこと。

羽幌町がしごとをしていくうえで、国などから入ってくるお金もだんだん厳しくなってきますが、今までのしごとのやり方を見直し、今まで以上に「計画的に、効率よく」実行していかなければなりません。

(単位：人)

項目 \ 年	S 60	H 2	H 7	H 12	H 17	H 22	H 27	H 32
年少人口 (0歳～14歳)	2,414	1,862	1,461	1,173	915	765	633	525
生産年齢人口 (15歳～64歳)	8,053	7,078	6,367	5,678	5,042	4,363	3,705	3,128
老年人口 (65歳以上)	1,789	2,004	2,274	2,513	2,632	2,640	2,612	2,491
計	12,256	10,944	10,102	9,364	8,589	7,768	6,950	6,144

(資料：国勢調査、(財)統計情報研究開発センター)



## 人口動態（自然動態・社会動態）の推移

(単位：人)

項目 \ 年	S 60	H 2	H 7	H 8	H 9	H 10	H 11	H 12
自然動態増減 (出生 - 死亡)	3	33	55	37	56	35	41	43
社会動態増減 (転入 - 転出)	264	231	61	116	81	141	66	99
その他増減	25	9	2	3	0	0	0	2
増減率	236	255	114	150	137	176	107	144

(住民基本台帳による)

●自然動態は、横ばいの傾向となっていますが、社会動態は、一時的に増加した年もありますが、減少傾向が続いています。これは、転入者より、転出者が多いためであり、若い人の働く場所が少なく羽幌町から転出するひとつの原因でもあります。